

令和7年度 第1回大田区こども未来会議以降の意見・質疑

意見・質疑	回答
<p>「大田区子ども・若者計画」の計画期間の延長について</p> <p>若者支援の方法が重点的に記載されている一方で、若者支援をする大人の支援はどのようなものがあるのか疑問に思いました。こども食堂支援や中高生ひろばなど、地域住民や民間企業、区職員がそれぞれに担っているかと思います。支援を行う大人への支援が、子ども若者への支援の強化につながると思いますので、現状をお聞きできたらと思います。</p>	<p>現在、支援団体等への運営費用の補助、支援者同士の交流や地域ボランティアのネットワークづくり、家族支援、講演会等での啓発などを行っています。詳しくは次のとおりとなります。</p> <p>子育て支援課では、こども・若者を支援する地域活動団体や民間企業への支援として、「こども食堂推進事業」、「長期休暇中の子どもの居場所づくり補助事業」を実施しています。これらを通じて、こどもやその保護者への食事の提供や、居場所づくりを行う団体や民間企業等の運営費用の一部を補助しています。また、「こども食堂連絡会」や「地域とつくる支援の輪プロジェクト」の意見交換会では、支援者同士の交流を図り、顔の見える関係性づくりや情報共有等を行い、こども・若者を中心とした支援の輪を広げています。</p> <p>また、子ども家庭支援センターには、「子育て応援コーナー運営委員会」が設置されています。地域のボランティアなどと連携を図り、子育てネットワークづくりを進めていくことや、乳幼児の保護者や育児支援者を対象とした子育て講演会の開催、ボランティア懇談会等を実施しています。ともに支えあう地域をつくるため、また地域総がかりの子育てをめざして、運営委員が中心となり各地域の民生委員にもご協力いただきながら事業を行っています。</p> <p>さらに、若者サポートセンター「フラットおおた」では、若者</p>

意見・質疑	回答
	<p>本人への支援に加え、保護者や家族などの支援を行う大人からの相談にも対応し、不安や孤立感の軽減を図っています。また、家族向け講演会の提供を通じて、若者理解の促進や支援につながるきっかけづくりを行っています。</p>
<p>資料7 P.18</p> <p>「おおたこども日本語教室」「生活再建・就労サポートセンターJOBOTA」が、令和6年度実績値よりも令和9年度目標値が低く設定されているのはなぜですか。</p> <p>令和6年度実績値を踏まえた目標値にすべきと考えます。</p>	<p>「おおたこども日本語教室」については、就学に繋がった割合が令和3年度60%、4年度59%、5年度77%と年度によって増減していることから、令和9年度の目標値は70%とし、その達成を目指し事業に取り組んでいきます。</p> <p>「生活再建・就労サポートセンターJOBOTA」については、相談件数が増加傾向にあること、また、今後、蒲田地域においてJOBOTA、SAPOTA、フラットおおたが連携した相談窓口を開設していくことから、令和9年度の目標値を「270件」に再設定します。</p>
<p>資料7 P.20</p> <p>「こどもSOSの家事業」の目標が実績値より低くなっているのはなぜですか？</p> <p>「子どもと地域をつなぐ応援事業」の目標「関係構築」とはなんですか。また、数値的な指標とはならないのはなぜでしょうか。</p>	<p>「こどもSOSの家事業」では、こどもたちが安心して駆け込むことができるよう協力員の登録状況と実態の整合を図るため、令和6～7年度にかけて全協力員に継続意向調査を実施し、1,737件の継続意向を確認しました。目標が実績値よりも低くなっているのは、調査結果を基準として目標値を設定したためです。</p> <p>「子どもと地域をつなぐ応援事業」は、児童扶養手当受給世帯、18歳未満のこどもがいる生活保護世帯、就学援助世帯に対して、区の支援情報やこどもの生活応援を推進する地域活動団体の情報等を郵送でお知らせする事業で、これを通じて支援が必要な世帯が区の相談機関やこども食堂、学習支援団体などの地域活動団体とつながりをつくることを目標としています。</p> <p>イベント等の参加者や利用者を上記世帯に限定することで参加</p>

意見・質疑	回答
	<p>や利用のハードルを高くしてしまわないよう、お知らせする情報は広く一般的に周知されているものとしています。このため、目標値は、数値的な指標ではなく「関係構築」としています。</p>